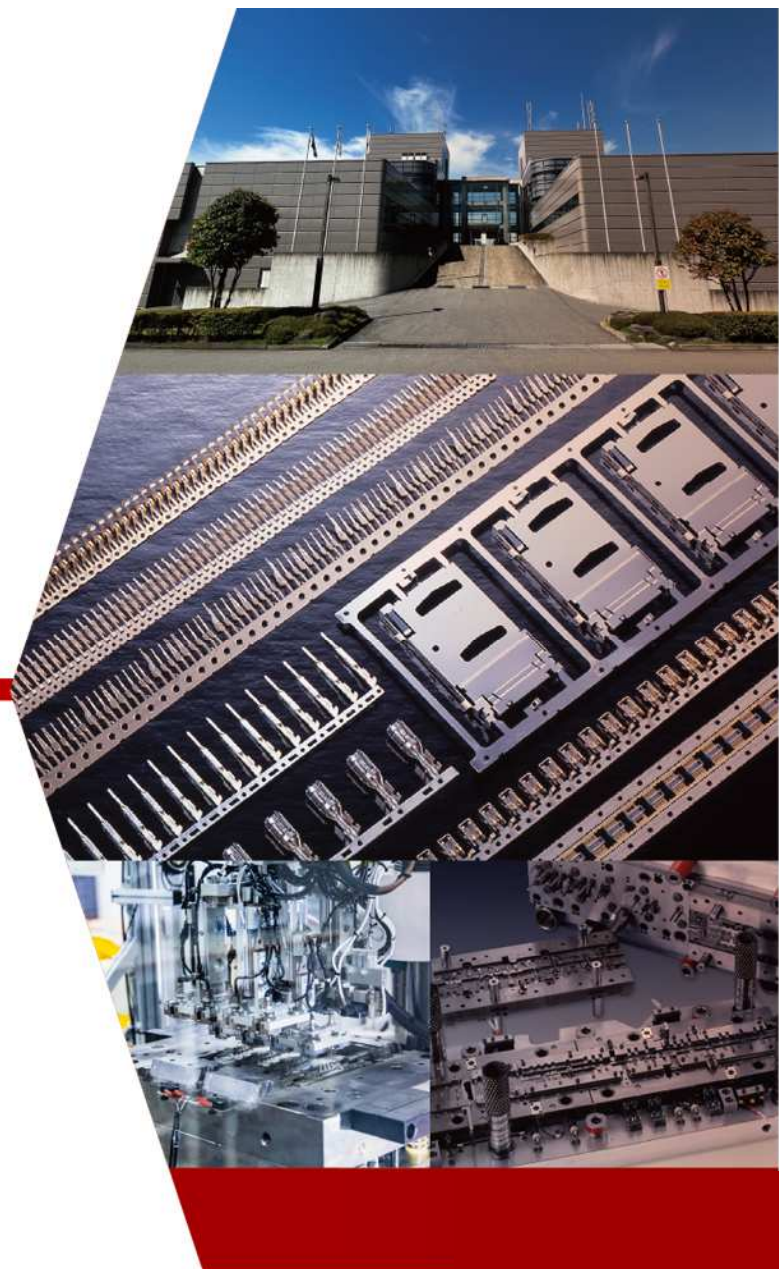




株式会社鈴木

2026年6月期
決算説明資料

東証プライム code:6785

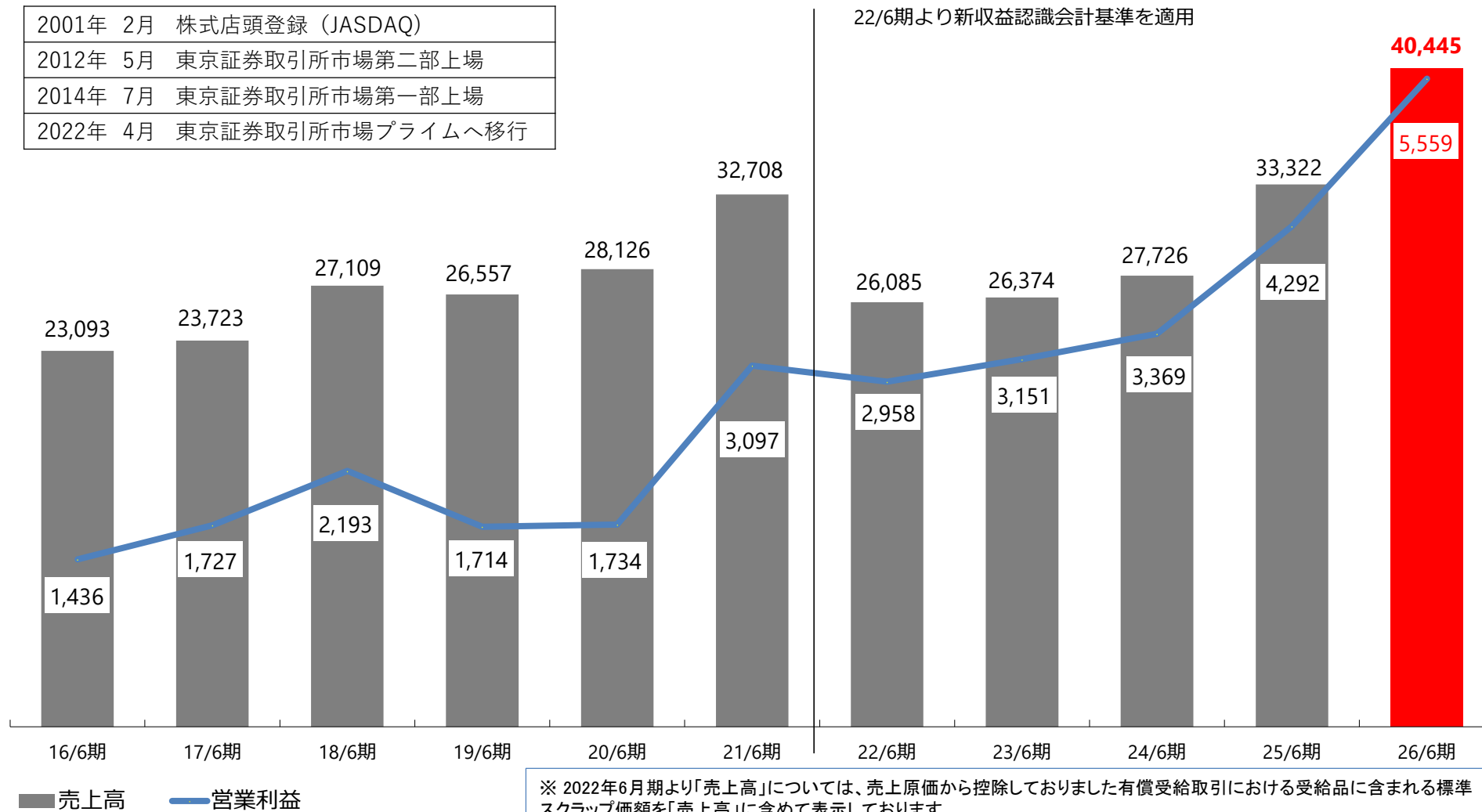


2026年6月期 業績説明

成長の軌跡

(単位：百万円)

2001年 2月	株式店頭登録 (JASDAQ)
2012年 5月	東京証券取引所市場第二部上場
2014年 7月	東京証券取引所市場第一部上場
2022年 4月	東京証券取引所市場プライムへ移行



連結損益計算書

- 2026年6月期の営業利益は前期比で29.5%増加
- 部品セグメントの主力であるスマートフォン関連部品、半導体関連部品の需要が増加し、産機向けは回復基調となりました。また、自動車電装部品は堅調に推移しました。
- 機械器具セグメントの自動機器堅調に推移し、医療組立は需要が増加しました。

(単位：百万円)

	2025年6月期		2026年6月期		増減	
	金額	売上比%	金額	売上比%	金額	増減比%
売上高	33,322	-	40,445	-	7,123	21.4
売上総利益	6,925	20.8	8,557	21.2	1,632	23.6
営業利益	4,292	12.9	5,559	13.7	1,267	29.5
経常利益	4,206	12.6	5,828	14.4	1,621	38.5
親会社株主に帰属する当期純利益	2,760	8.3	3,749	9.3	988	35.8

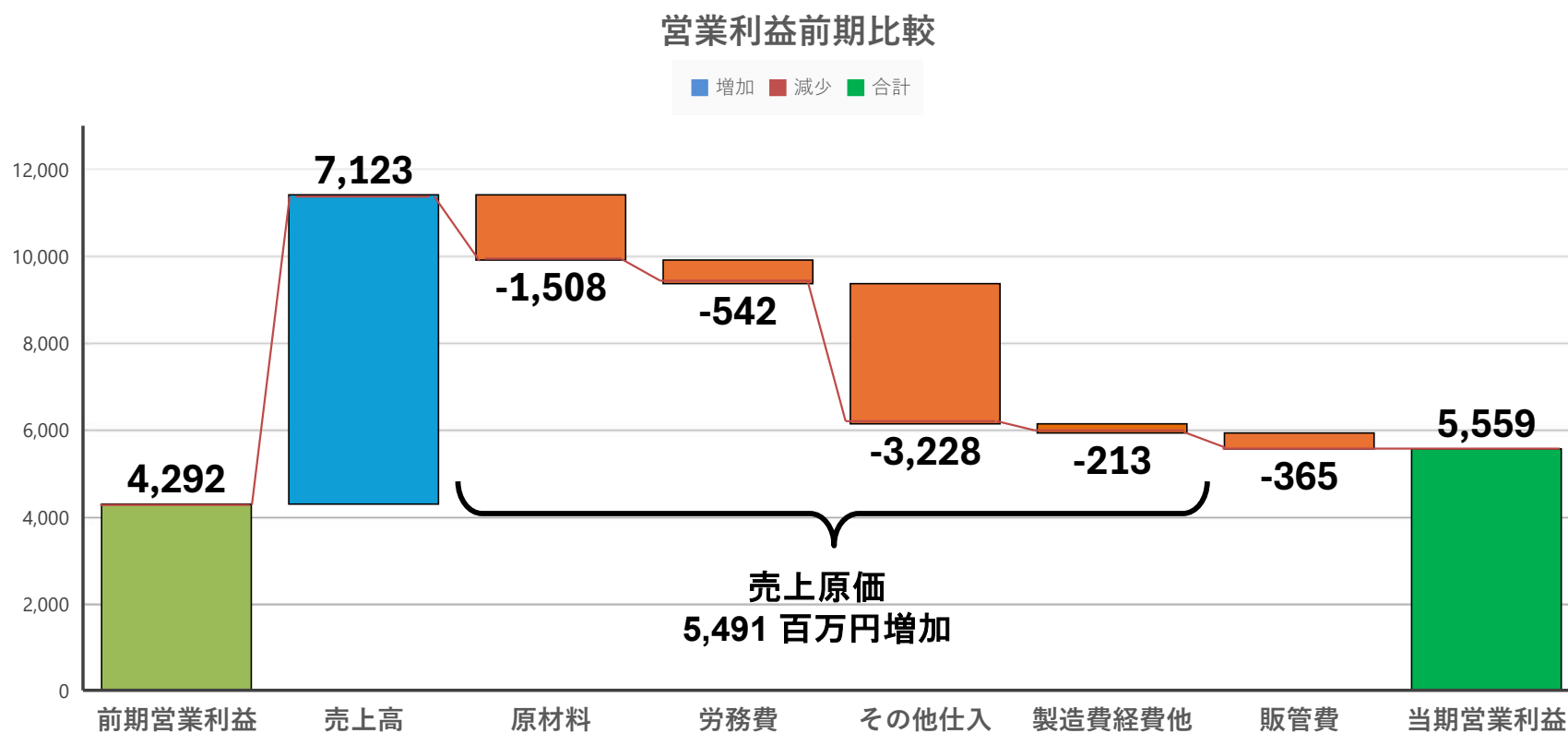
連結損益計算書（前期比/営業利益増減）

■ 営業利益1,267百万円増加の内訳

プラス要因：売上高 7,123百万円増加

マイナス要因：売上原価 5,491百万円増加、販管費 365百万円増加

（単位：百万円）



連結事業別セグメント情報（前期比）

セグメント別 売上高 前年同期比較

（単位：百万円）

	2025年6月期		2026年6月期		増 減	
	金額	構成比%	金額	構成比%	金額	前年同期比%
■ 金型	1,251	3.8	1,482	3.7	231	18.4
■ 部品	25,623	76.9	31,906	78.9	6,283	24.5
■ 電子部品コネクタ	20,701	62.1	26,081	64.5	5,380	26.0
■ 自動車電装部品コネクタ	4,921	14.8	5,825	14.4	903	18.3
■ 機械器具	6,440	19.3	7,050	17.4	610	9.5
■ 賃貸	7	0.0	8	0.0	1	7.4
合計	33,322	100	40,445	100	7,123	21.4

セグメント利益 前年同期比較

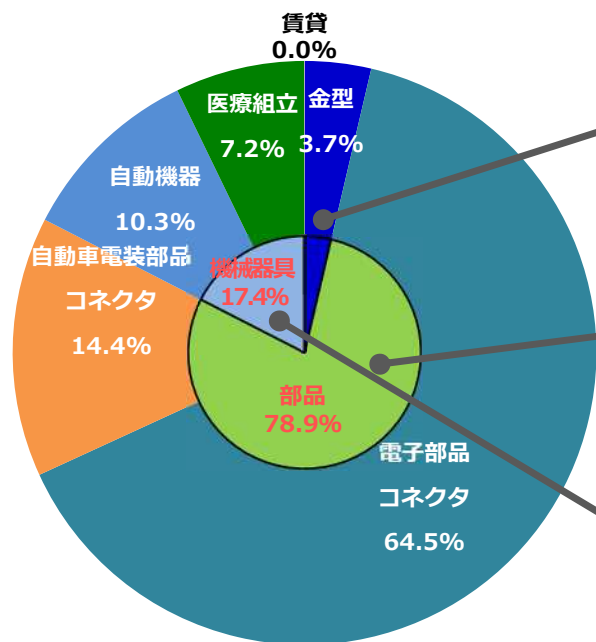
（単位：百万円）

	2025年6月期		2026年6月期		増 減	
	金額	構成比%	金額	構成比%	金額	前年同期比%
■ 金型	254	4.4	340	4.7	86	33.6
■ 部品	4,702	81.1	5,902	82.0	1,200	25.5
■ 電子部品コネクタ	4,007	69.1	5,117	71.0	1,109	27.7
■ 自動車電装部品コネクタ	694	12.0	785	11.0	90	13.0
■ 機械器具	741	12.8	874	12.1	133	17.9
■ 賃貸	101	1.7	89	1.2	△13	△12.5
合計	5,799	100	7,204	100	1,405	24.2

セグメント利益については、セグメント間取引消去前の金額で記載しております。

連結事業別セグメント情報（売上高構成及び時系列推移）

2026年6月期 売上高構成、前年同期比較説明



【金型セグメント】

- 電子機器向け、自動車電装向け共に受注が堅調に推移し、増収増益
売上高 1,482百万円、前年同期比18.4%増加
- セグメント利益 340百万円、前年同期比33.6%増加

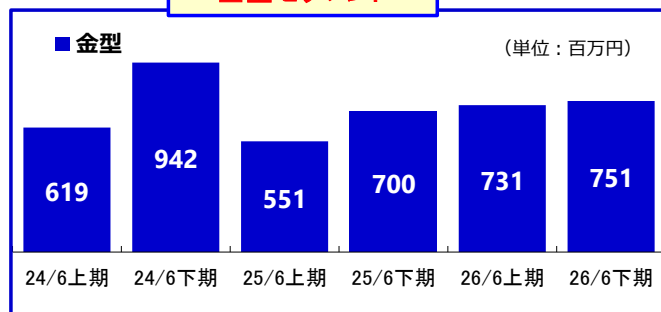
【部品セグメント】

- 電子部品コネクタは、スマホ・半導体向けの需要が増加し、産機向けは回復基調になり増収
売上高 26,081百万円、前年同期比26.0%増加
- 自動車電装部品コネクタは、堅調に推移して増収
売上高 5,825百万円、前年同期比18.3%増加
- セグメント利益 5,902百万円、前年同期比25.5%増加

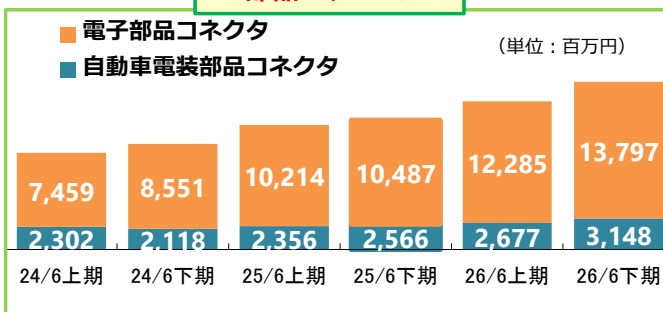
【機械器具セグメント】

- 自動機器は、自動車関連が堅調に推移して増収
売上高 4,151百万円、前年同期比12.6%増加
- 医療組立は、需要が増加し増収、売上高 2,899百万円、前年同期比5.2%増加
- セグメント利益 874百万円、前年同期比17.9%増加

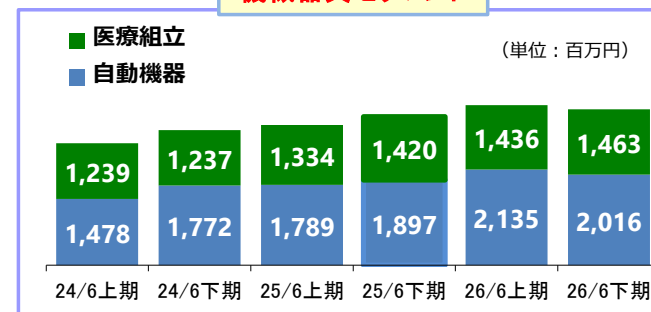
金型セグメント



部品セグメント



機械器具セグメント



連結貸借対照表

(単位：百万円)

財務体質は健全な水準を維持

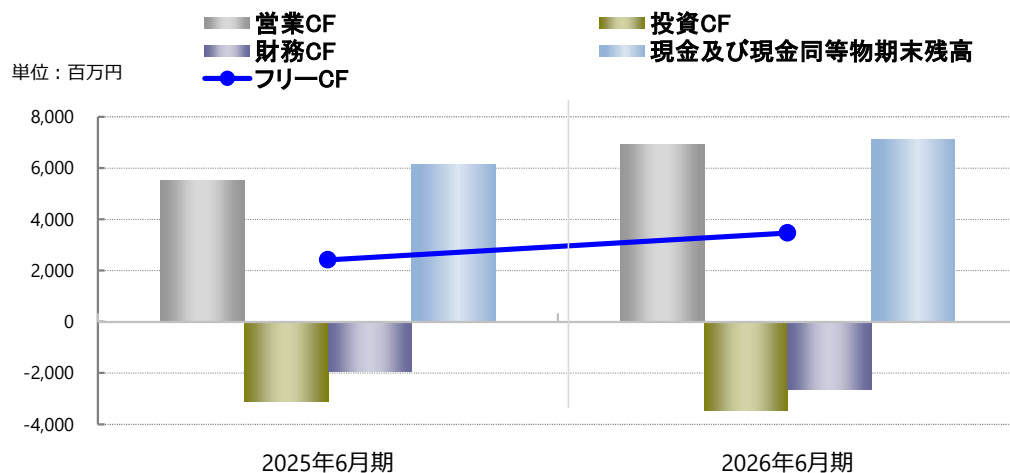
	2025年6月期	2026年6月期	増減額
流動資産	19,463	23,968	4,504
現金及び預金	6,807	8,302	1,495
受取手形及び売掛金	7,193	8,841	1,648
たな卸資産	4,299	5,248	948
固定資産	20,309	24,030	3,722
有形固定資産	17,333	17,805	472
無形固定資産	147	214	67
投資その他の資産	2,829	6,011	3,182
資産合計	39,773	47,998	8,225
流動負債	9,801	12,249	2,448
買掛金+契約負債	6,016	7,909	1,893
未払金	548	980	432
未払法人税等	687	1,007	319
固定負債	2,070	2,583	513
長期借入金	578	81	△ 497
純資産	27,902	33,166	5,264
負債及び純資産合計	39,773	47,998	8,225

	2025年6月期	2026年6月期
短期借入金	1,275	933
一年内返済予定長期借入金	601	497

有利子負債	2025年6月期	2026年6月期
	2,454	1,511

	2025年6月期	2026年6月期
流動比率	198.6%	195.7%
当座比率	142.8%	140.0%
固定比率	75.4%	75.4%
自己資本比率	67.7%	66.4%

連結キャッシュフロー計算書



	2025年6月期	2026年6月期
営業活動によるキャッシュフロー	5,500	6,909
投資活動によるキャッシュフロー	△3,087	△3,444
フリーキャッシュフロー	2,413	3,465
財務活動によるキャッシュフロー	△1,925	△2,623
現金及び現金同等物の増減額	433	944
現金及び現金同等物の期首残高	5,723	6,157
現金及び現金同等物の期末残高	6,157	7,101

【営業活動によるキャッシュフローの主な項目】

税 引 前 当 期 純 利 益	5,849百万円
減 価 償 却 費	2,717百万円
売 上 債 権 の 増 減 額	△1,535百万円
仕 入 債 務 の 増 減 額	1,650百万円
棚 卸 資 産 の 増 減 額 (増 : △)	△837百万円
法 人 税 等 の 支 払 額	△1,276百万円

【投資活動によるキャッシュフローの主な項目】

定期預金の預け入れによる支出	△1,200百万円
有形固定資産の取得による支出	△2,775百万円

【財務活動によるキャッシュフローの主な項目】

短 期 借 入 金 の 純 増 額	△440百万円
長 期 借 入 金 の 返 済 に よ る 支 出	△601百万円
配 当 金 の 支 払 額	△1,321百万円
非 支 配 株 主 へ の 配 当 金 の 支 払 額	△259百万円

事業状況

モノ作りNo.1を目指して：電子部品コネクタ

事業セグメント

金型

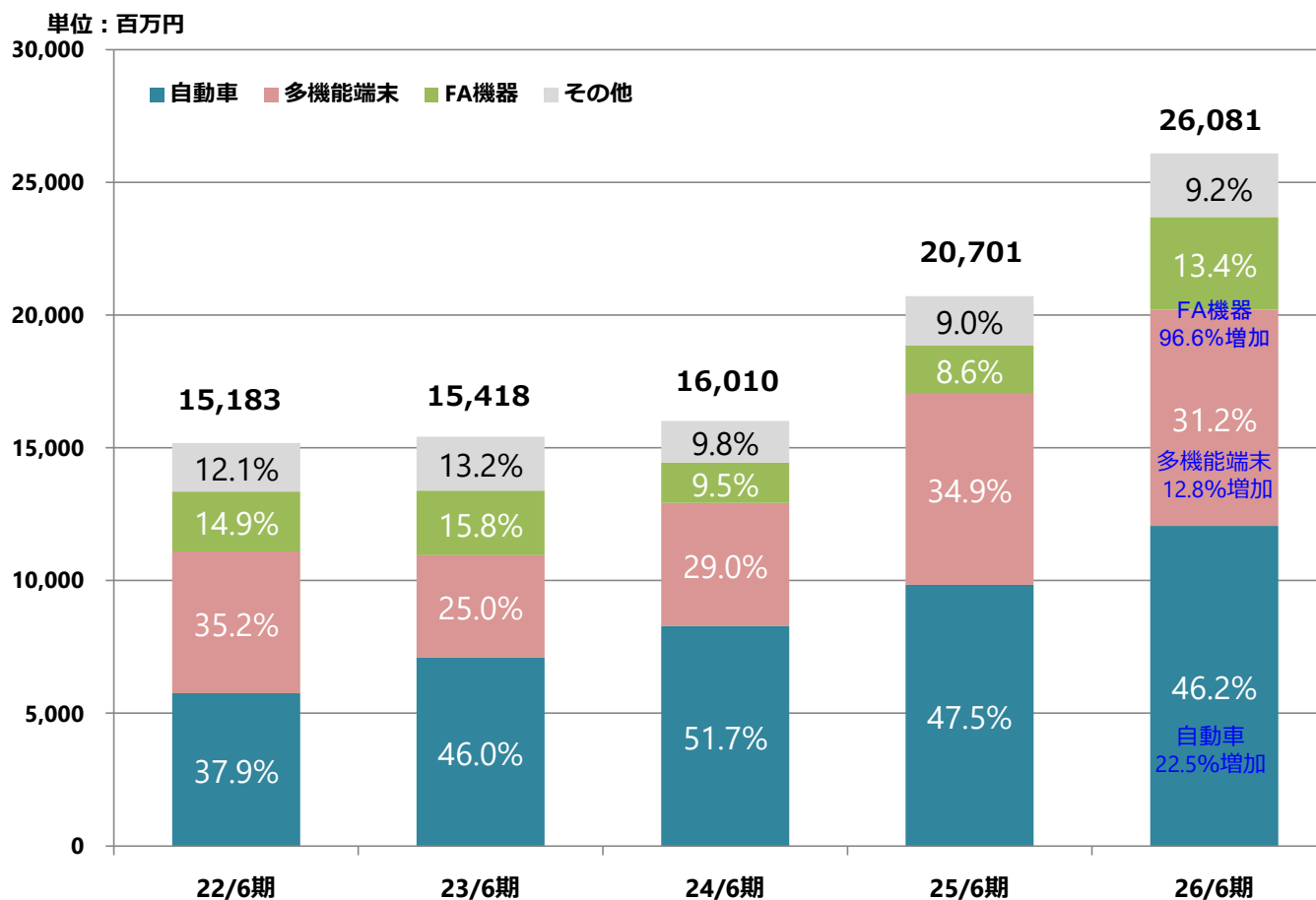
部品

機械器具

10

独自技術と融合技術の深掘り

電子部品コネクタ 売上推移と用途別売上比率



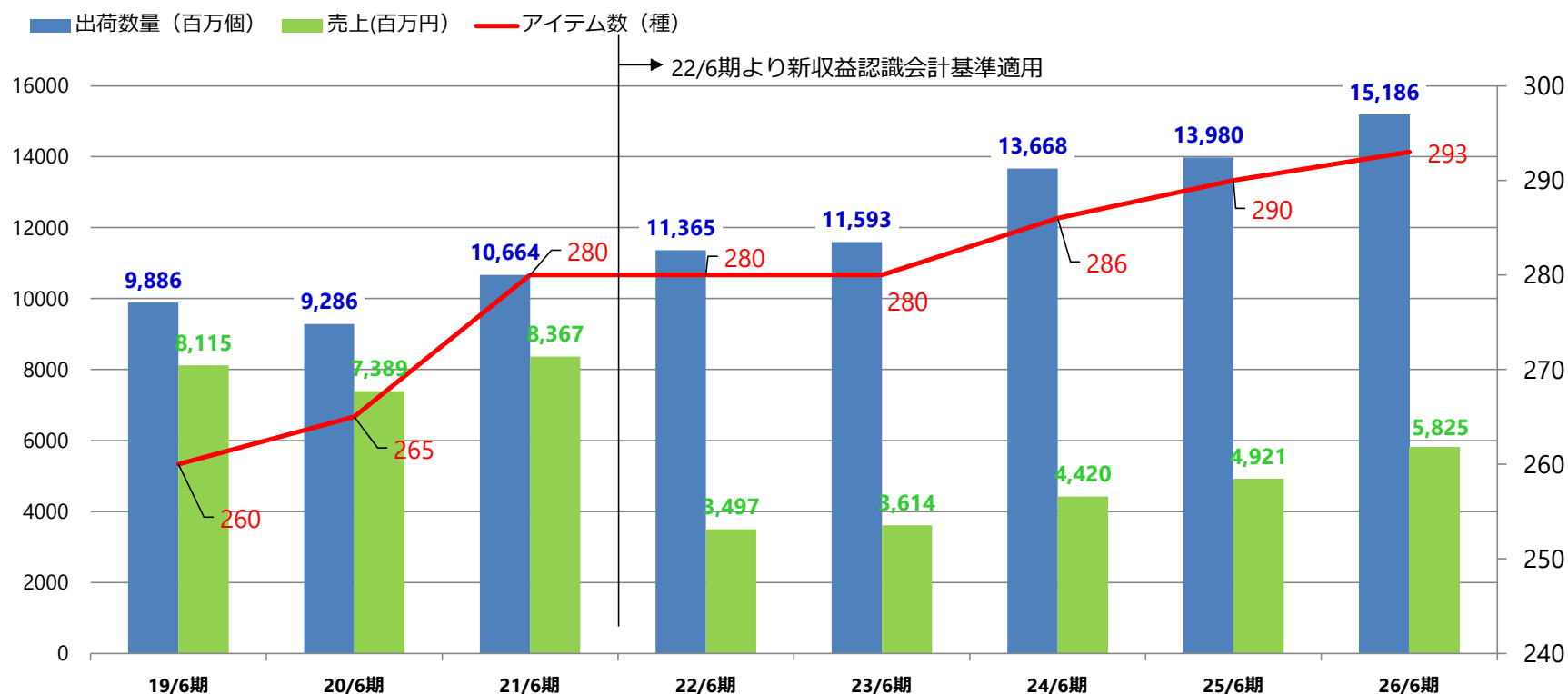
日滝原第2工場(車載向け部品生産設備)



HV車向けリチウムイオンバッテリー部品

金型技術、量産技術を背景に継続的な事業拡大

売上及び出荷数量の推移



モノ作りNo.1を目指して：機械器具（自動機器）

事業セグメント

金型

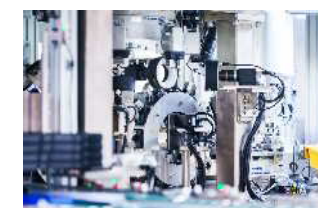
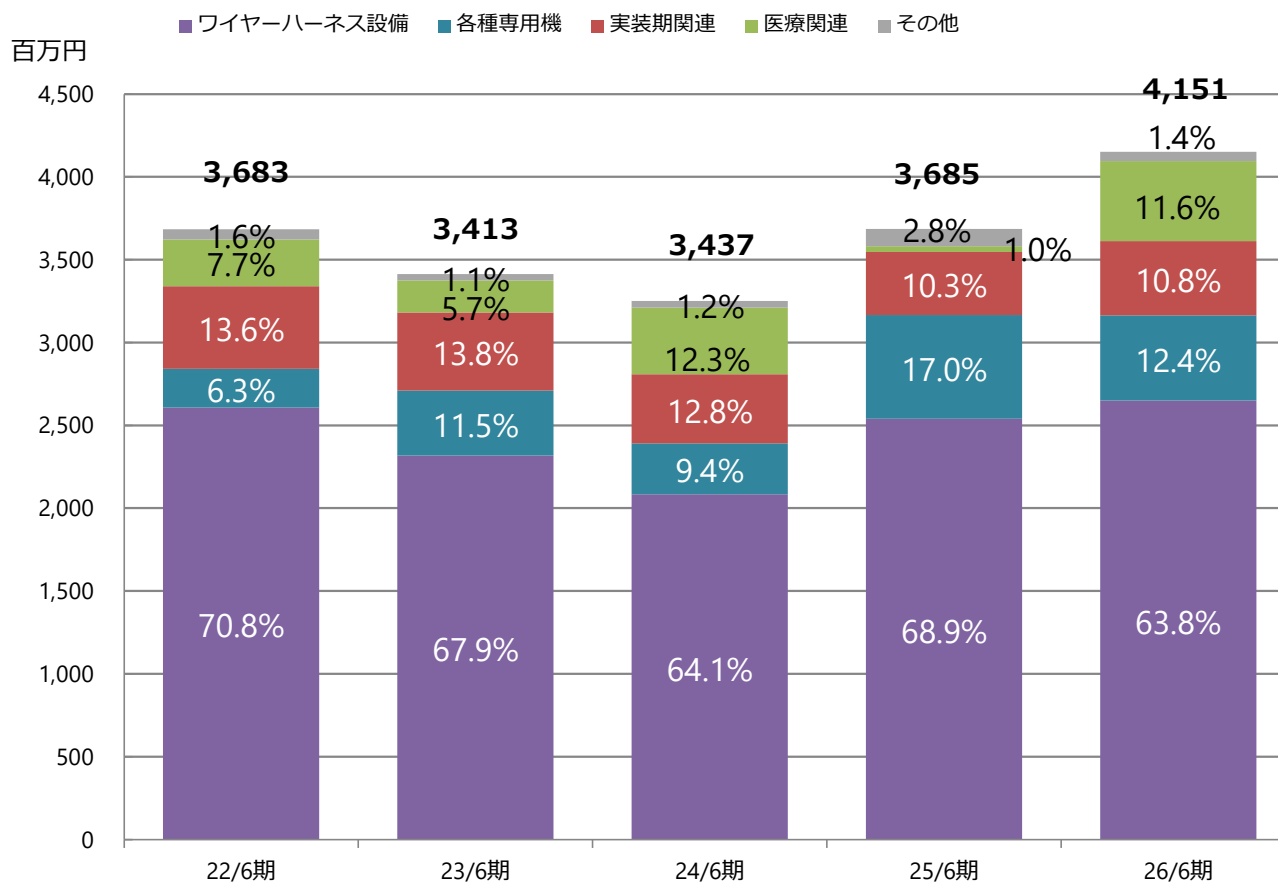
部品

機械器具

12

技術力・提案力を活かし新たな分野にもチャレンジ

機械器具（自動機器）の売上推移と構成比率



ワイヤーハーネス設備 (S&S-AT)
自動車ワイヤーハーネス組立装置などを開発・製造しています。

専用機
各種自動機器や、合理化設備、検査装置を設計・製造しています。



実装機
リフロー炉やディスペンサーなど実装関連の自社ブランド機を開発・製造しています。

医療関連
子会社(イメージカル)向け医療組立用の自動化・省力化装置などを、開発・製造しています。

モノ作りNo.1を目指して：機械器具（医療組立）

事業セグメント

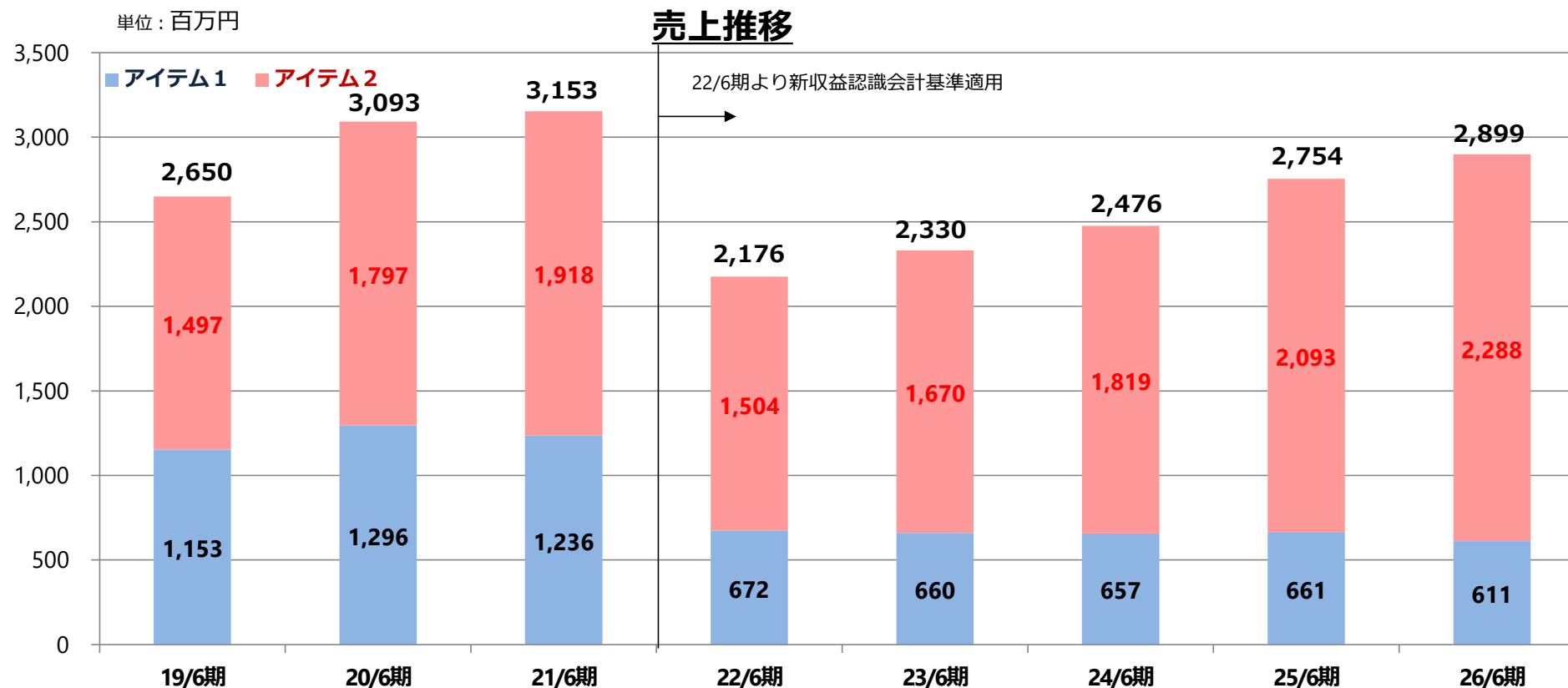
金型

部品

機械器具

13

受注拡大により更なる安定事業に発展



2019年 アイテム2
1品種追加、ライン増設

2022年 アイテム2
新工場の増設ライン稼働開始

2027年6月期の予想

通期連結業績見通し

セグメント別売上高

(単位：百万円)

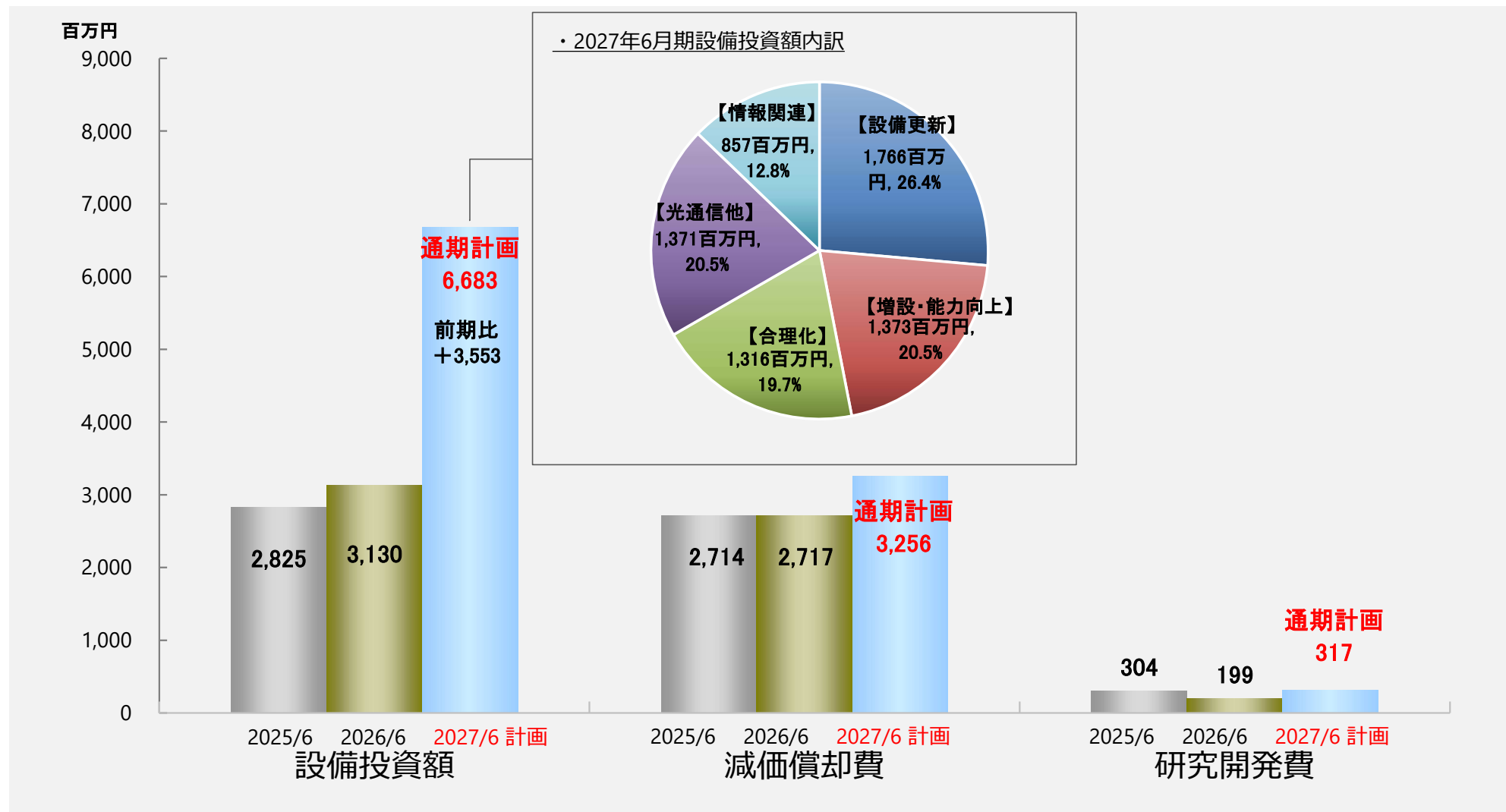
	2026年6月期		2027年6月期予想		増減		
	金額	構成比%	金額	構成比%	金額	金額比%	構成比%
■ 金型	1,482	3.7	1,908	4.4	426	28.7	0.7
■ 部品	31,906	78.9	33,099	76.7	1,193	3.7	△2.2
■ 電子部品コネクタ	26,081	64.5	27,620	64.0	1,539	5.9	△0.5
■ 自動車電装部品コネクタ	5,825	14.4	5,479	12.7	△346	△5.9	△1.7
■ 機械器具	7,050	17.4	8,133	18.8	1,083	15.4	1.4
■ 賃貸	8	0.0	10	0.0	3	42.9	0.0
合計	40,445	100	43,150	100.0	2,705	6.7	0.0

通期業績予想

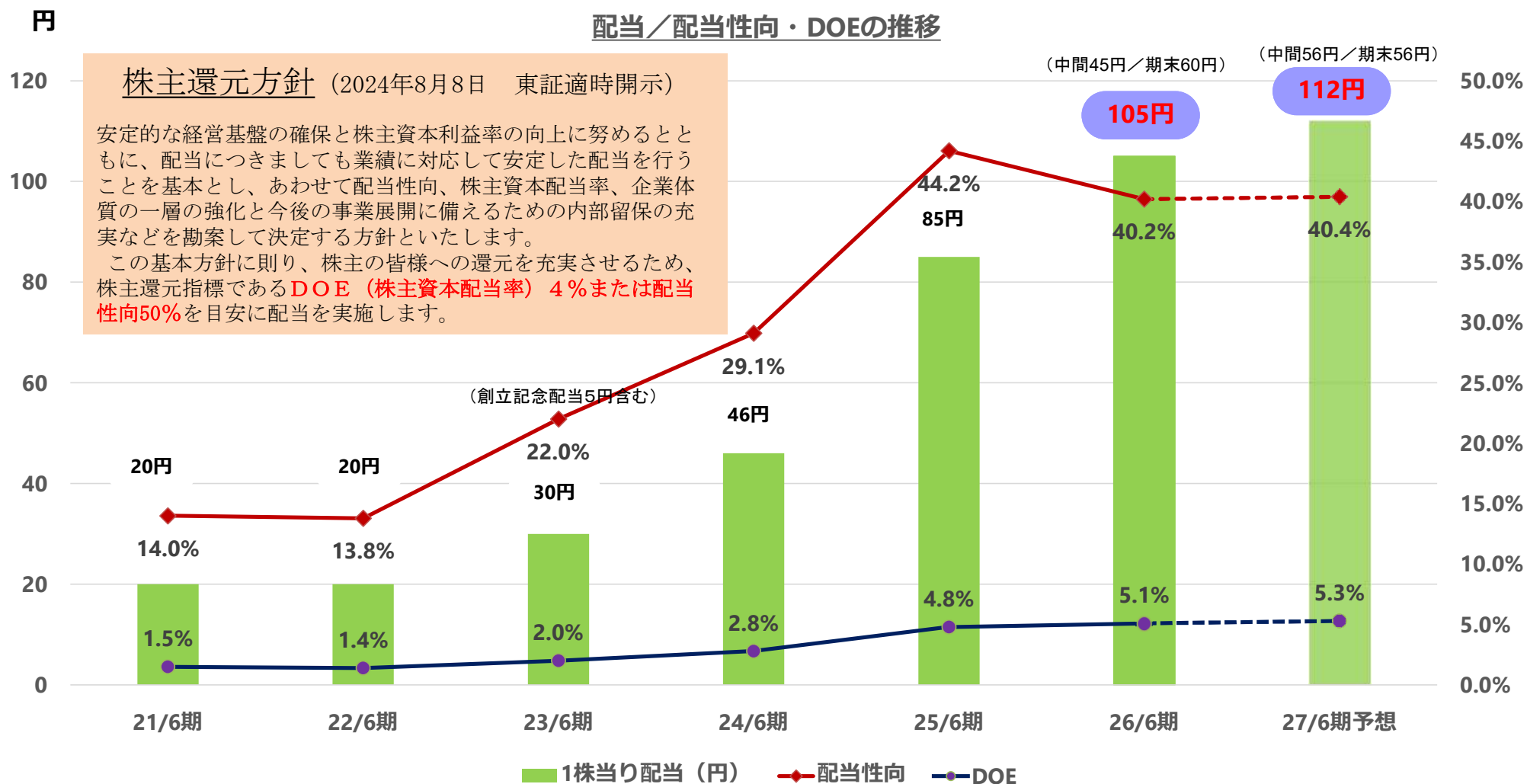
(単位：百万円)

	2026年6月期		2027年6月期予想		増減	
	金額	売上比%	金額	売上比%	金額	増減比%
売上高	40,445	-	43,150	-	2,705	6.7
営業利益	5,559	13.7	6,030	14.0	471	8.5
経常利益	5,828	14.4	6,070	14.1	242	4.2
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,749	9.3	3,980	9.2	231	6.2

設備投資額・減価償却費・研究開発費



配当・配当性向



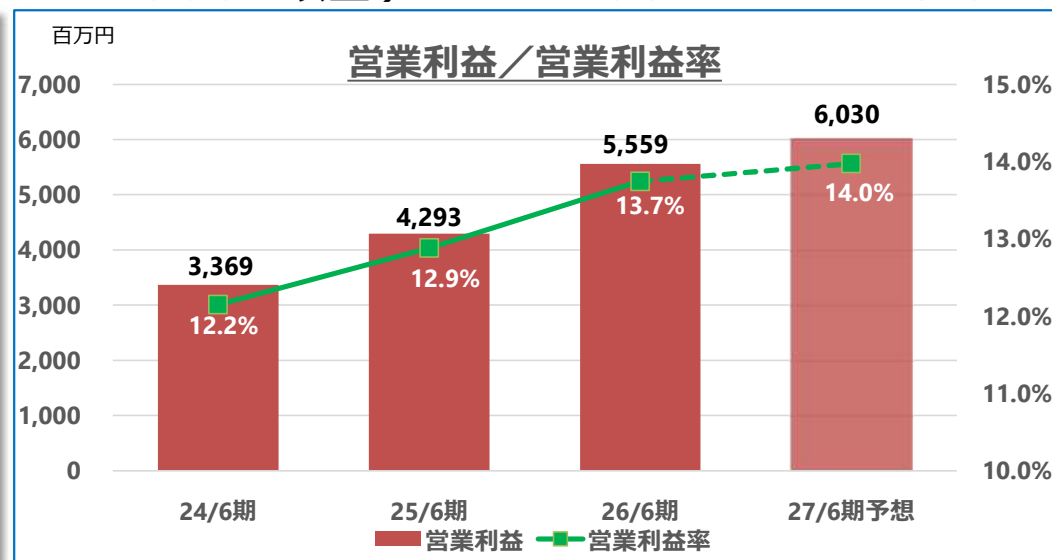
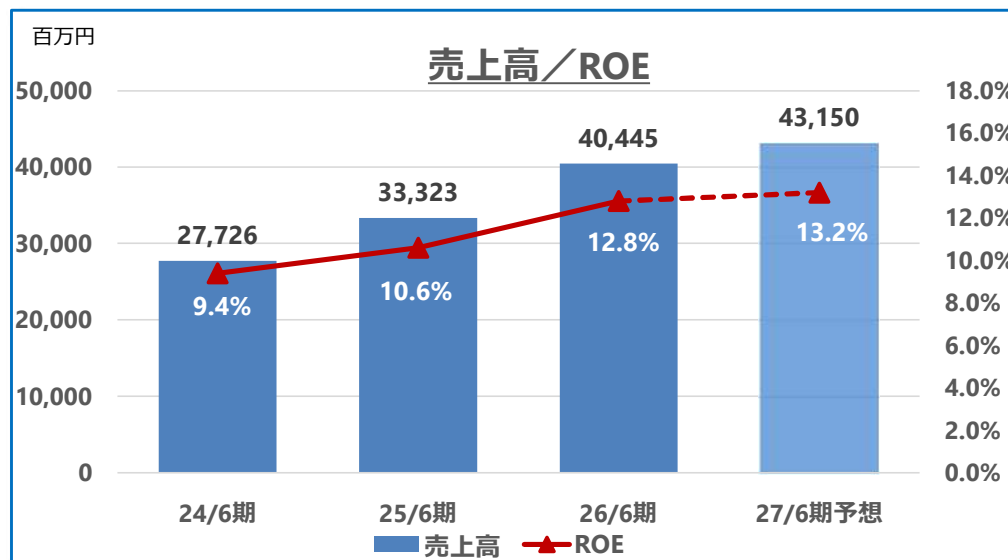
中期経営計画

中期経営目標は26年6月期に達成。第2次中期経営目標(2028年6月期～)で更なる成長を目指す 19

中期経営目標 (～2027年6月期)

売上高：**400**億円／営業利益：**50**億円

ROE：**10.0**%以上／DOE：**4.0**% or DPS：**50**%



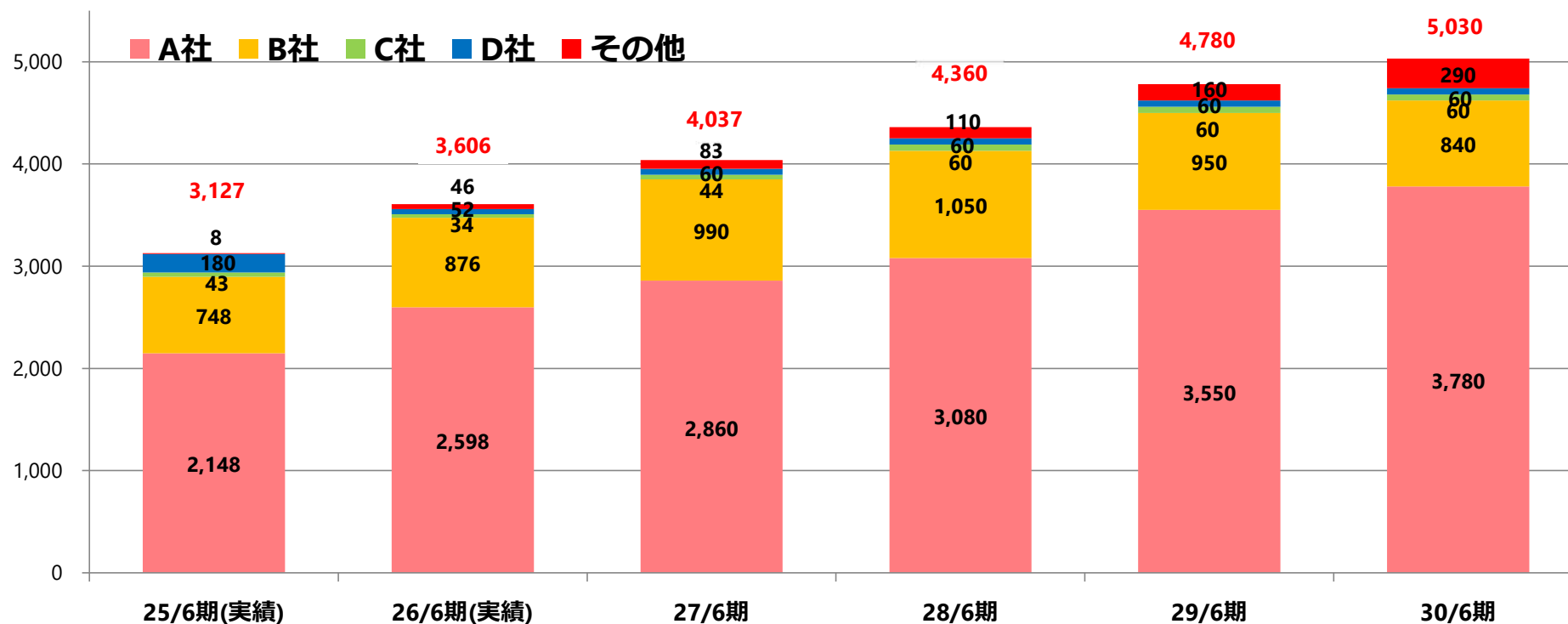
- ◆ 2027年6月期までの中期経営目標としていた売上高400億円/営業利益50億円を2026年6月期に達成
- ◆ 2027年6月期は単年での計画とし、増収増益を目標とする。
- ◆ 2028年6月期からの第2次中期経営計画は2027年6月期中間決算時を目途に策定・発表予定

車載部品ビジネス（Tier1,2向け部品事業含む）

- ・ A社のトヨタ車向けリチウムイオン電池部品と B社向け車載センサー部品は堅調に推移
- ・ A社の次世代リチウムイオン電池部品を受注予定

単位：百万円

売上計画 （現時点での生産アイテムおよび受注予定アイテム（設備回収費は除く））



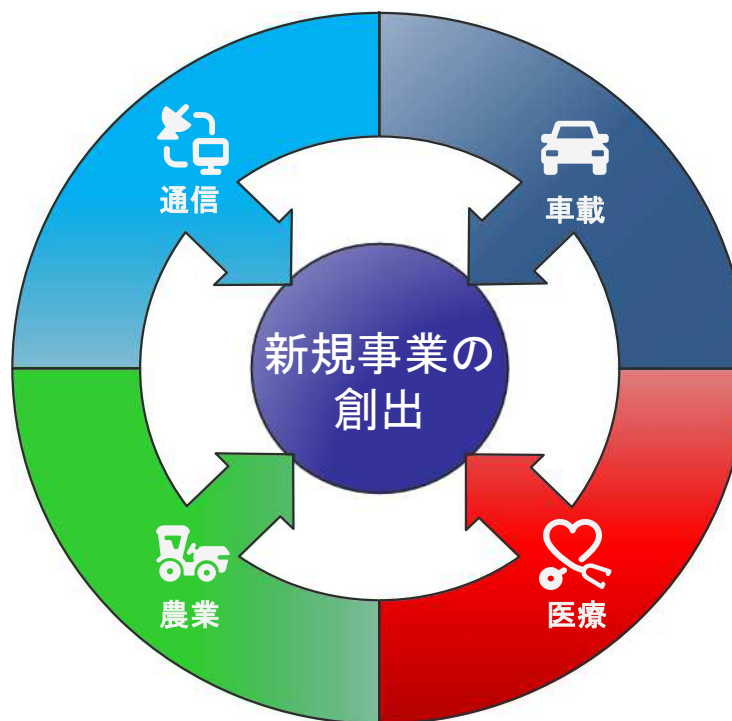
金型技術の進化・深掘り

当社の金型技術、微細加工技術を更に進化・深化させ、需要拡大が見込まれる、高速通信向けコネクタ市場等への参入を模索し、金型セグメントと部品セグメントの売上拡大を目指します。



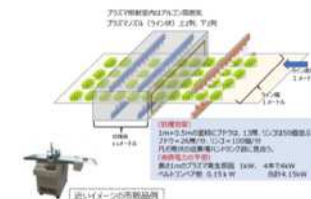
新たなめっき技術

有限会社ナプラが保有する IMC 技術を活用し、従来の電解めっきでは対応が困難であった高耐熱・高耐久・耐腐食性に優れためっき加工の量産化に向けた技術開発を進めています。



プラズマ技術の開発

食品ロス削減、CO2排出削減の社会実装事業として環境省の採択を得て2023年から社会実験を開始した革新的食品鮮度維持技術「ナノスーツ」活用の設備開発を進めています。ナノスーツ液を生鮮食品へ塗布するためのプラズマ技術を開発しています。



金属粉末射出成形 (MIM) 技術

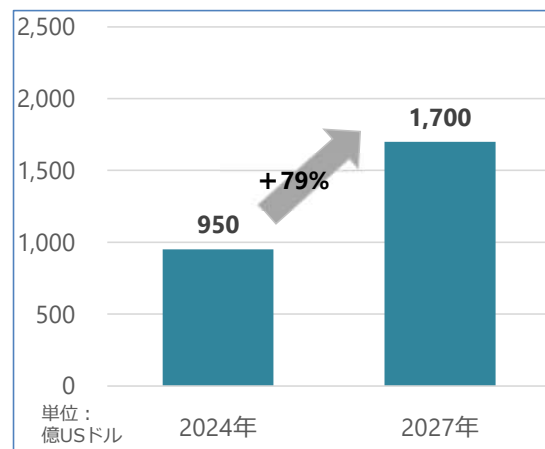
金属粉末射出成形は、高精度かつ複雑な3D形状の金属部品を製造する技術です。新規分野進出のための技術開発を開始しました。



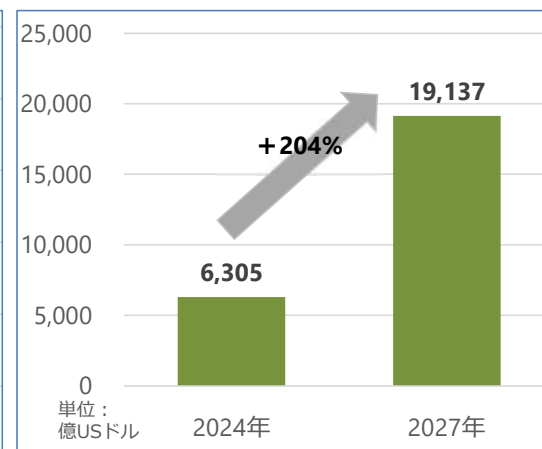
金属成形体
(当社試作品)

高精度光通信用部品の量産体制構築

・世界AIインフラ投資



・世界半導体市場



市場予測

- ・世界AIインフラ投資：1,700億USD(2027年)
- ・世界半導体市場：19,137億USD(2027年)

- ・データセンター増設による高速通信需要の増加
- ・AIサーバの増設による半導体需要の増加

- ・高精度光通信用部品の量産体制構築に着手
- ・半導体向け既存製品の生産強化

光通信用部品

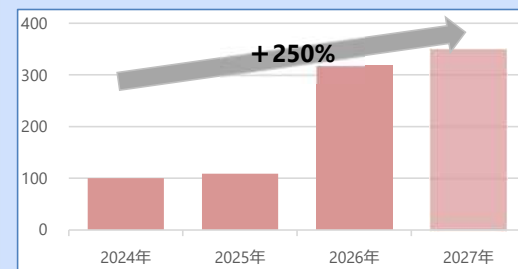
金型・部品セグメント

- ・高精度光通信用部品の量産体制構築に着手

量産開始時期	2027年春頃
量産体制構築に関する設備投資	約11億円(予定)

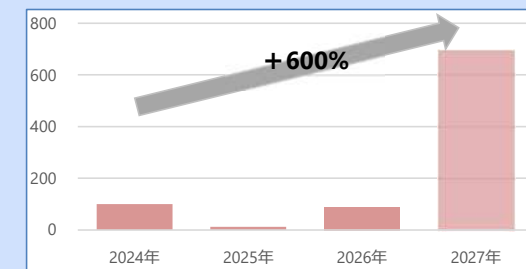
既存製品の生産強化

【部品】半導体テストソケット用部品



※2024年の売上を100として算出

【機械器具】半導体製造用自動機器



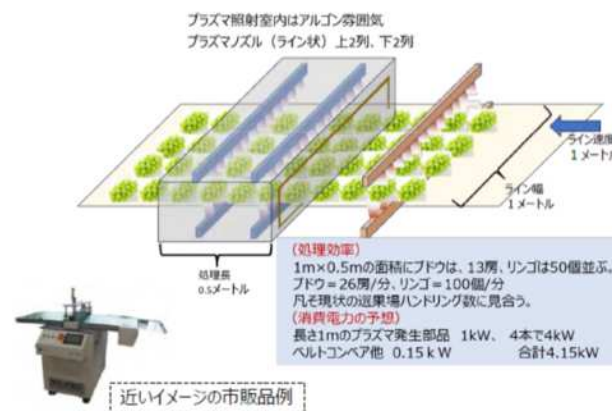
プラズマ技術の開発

技術概要	・ 環境省採択事業として進めている「ナノスーツ」を活用した食品鮮度維持技術 ・ ナノスーツ液を生鮮食品へ塗布するためのプラズマ技術の設備開発
今後の計画	・ 2027年6月期に複数の実証試験を実施 ・ 実証試験の結果から量産機的设计・製作を検討

・ 開発スケジュール

	25年/6期	26年/6期	27年/6期
卓上機 (プロトタイプ機) 製作	→		
実証試験機製作		→	
実証試験			→
量産機設計・製作			→

・ ナノスーツ原理



・ 実証試験機



新たなめっき技術

技術概要	・ (有)ナプラが保有するIMC技術を活用した新たなめっき技術 ・ 従来のめっきよりも耐熱性・耐久性・耐腐食性に優れる。
今後の計画	・ 顧客評価を進めながら量産仕様を固める。 ・ 既存めっき品の置換えや新規市場への参入を目指し事業化を推進する。



金属粉末射出成形（MIM）技術

技術概要	・ 金属粉末と樹脂を混合した材料を焼結することで金属部品を製造する技術 ・ 従来加工では難しい微細かつ複雑な3D形状を高精度で実現
今後の計画	・ 2027年春頃に生産設備を導入し試作を開始 ・ 量産ノウハウを蓄積し将来的な本格量産体制の確立を目指す。





Being an “Only-One Company”

本資料は、2026年6月期の業績に関する情報の提供と、当社に対するご理解をより深めて頂くことを目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありません。また、本資料は2026年6月末時点のデータに基づいて2026年8月25日に作成されております。本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性、完全性を保証し又は約束するものではなく、また今後予告なしに変更されることがあります。

お問い合わせ

ir2006@suzukinet.co.jp



代表取締役社長

取締役常務執行役員管理本部長

鈴木 教義
小川 清久

参考資料

株式会社鈴木

会社プロフィール

所在地 : 長野県須坂市大字小河原2150-1

創業 : 昭和8年 東京都大田区において鈴木製作所創業

資本金 : 24億4,245万円

売上高 : 404億円 (2026年6月期・連結)

代表者 : 代表取締役社長 鈴木教義

社員数 : 連結 : 1,127名 (2026年6月末時点)

株式市場 : 2001年2月16日 JASDAQ
2014年7月31日 東京証券取引所市場第一部
2022年4月4日 同 プライム市場へ移行

発行済株式数 : 14,404,400株 (100株単位)



株主の状況

(2026年6月末現在)

大株主情報

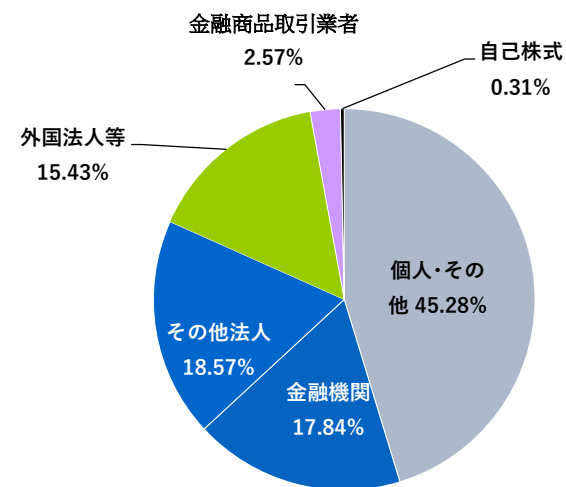
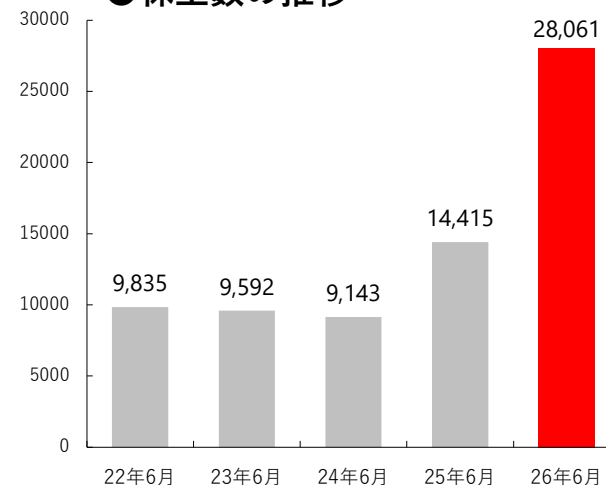
株主名	持株数(株)	持株比率(%)
株式会社クリンゲル	2,272,600	15.83
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	1,267,200	8.82
株式会社日本カストディ銀行 (信託口)	914,000	6.37
鈴木従業員持株会	492,204	3.43
鈴木 教義	382,340	2.66
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505223	242,171	1.69
THE BANK OF NEW YORK,TREASTY JASDEC ACCOUNT	230,504	1.61
BNY GCM CLIENT ACCOUNT JPRD AC ISG(FE-AC)	201,812	1.41
GOLDMAN SACHS INTERNATOONAL	198,600	1.38
小島 まゆみ	160,000	1.11
株式会社商工組合中央金庫	160,000	1.11
鈴木 照子	160,000	1.11

※持株比率は、自己株式(45,158株)を控除して計算しております。

所有者別株式分布状況

	全株主数 (名)	株式数 (株)	株式数分布比率(%)
個人・その他	27,709	6,521,944	45.28
金融機関	12	2,570,200	17.84
その他国内法人	124	2,674,431	18.57
外国人	189	2,222,600	15.43
証券会社	26	370,067	2.57
自己名義株式	1	45,158	0.31

株主数の推移



生産拠点

国内は長野県須坂市に拠点を集約

本社機能
金型製造部



本社工場 営業部門 / 管理部門 / 金型製造

部品製造部
エスメディカル(株)



エスメディカル/第3工場
医療用機器組立 / 車載用部品生産

生産システム製造部
S&Sアドバンステクノロジーズ(株)



須坂インター工場 各種装置製造

海外拠点

鈴木東新電子(中山)有限公司
中国/広東省中山市
端子スタンピング / めっき

PT.SUGINDO INTERNATIONAL
インドネシア/西ジャワ州
端子スタンピング
インサート成形



部品製造部 / S&Sコンポーネンツ(株)



日滝原工場 プレス / めっき / インサート成形 / 部品組立

株式会社鈴木

3つの主なセグメントとグループ会社



金型

プレス金型、モールド金型の製造
金型設計、金型部品加工、組立

部品

電子部品、自動車部品の製造
プレス量産、めっき、インサート成形、組立

機械器具

各種自動機器、FA機器の製造
装置設計、組立、医療用機器の組立

グループ会社

S&Sコンポーネンツ(株)

自動車ハーネス用端子をメインとした車載部品のプレス加工を行う。
住友電装(株)との合併会社。
(持株比率：51%)

S&Sアドバンス テクノロジー(株)

自動車ハーネス用組立機をメインとした車載部品組立装置を製造。
住友電装(株)との合併会社。
(持株比率：51%)

エスメディカル(株)

医療用機器の組立。
(持株比率：100%)

海外生産拠点

鈴木東新電子(中山)有限公司
中国：広東省中山市
(持株比率：80%)
PT. SUGINDO INTERNATIONAL
インドネシア：カラワン工業団地
(持株比率：99.99%)

金型セグメント

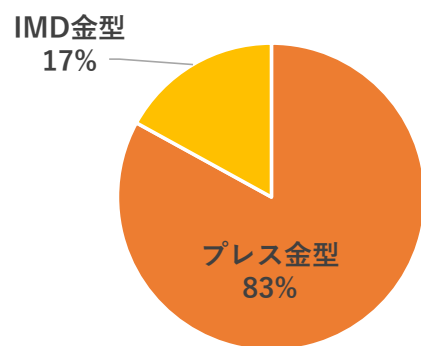
超精密プレス金型 / インサート成形金型の製造・販売

卓越した技術力と技能、超精密微細加工で
お客様のアイデアを形にします。

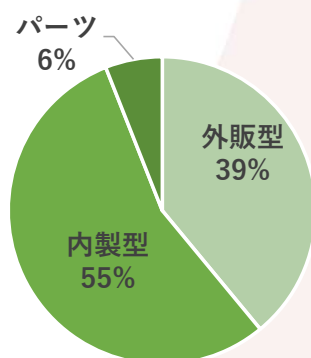
月産完成台数 **30台/月** 約**30名**の設計部隊

対応トン数 **プレス型 ~200t (順送/単発)**
IMD型 ~100t (単動/ロータリー)

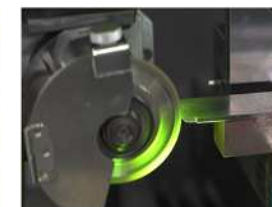
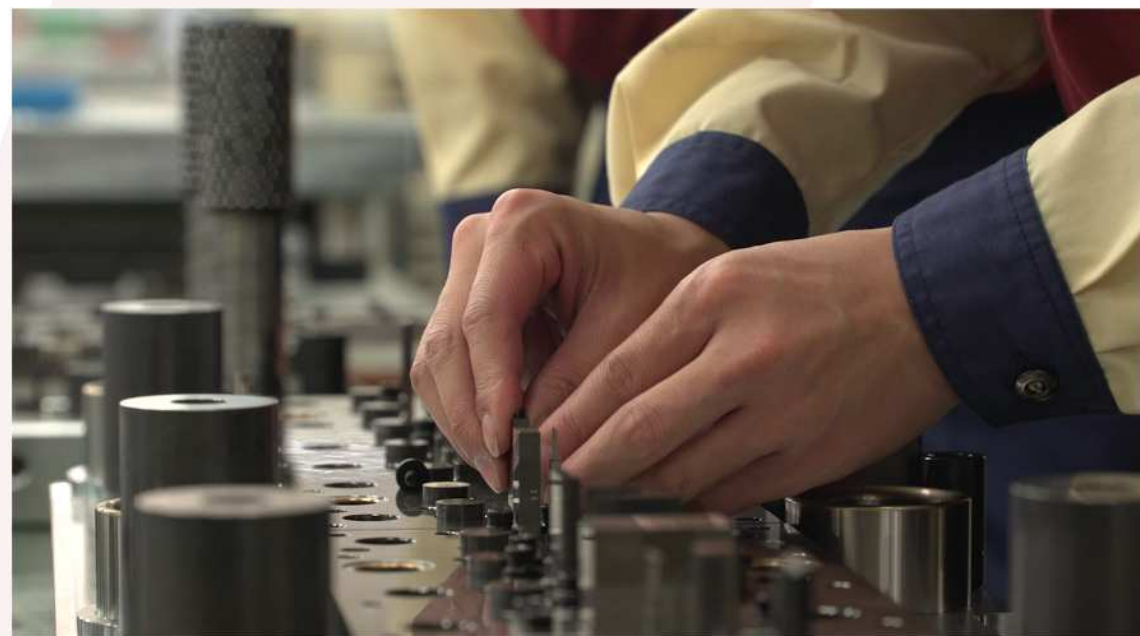
主な品目：コネクタコンタクト / 車載向け部品
(モバイル端末 / 車載部品 / 医療機器 / 産業機器 / 半導体関連機器)



プレス/ IMD 型比率



外販/ 内製 型比率



部品セグメント

コネクタ用コンタクトを中心とした各種精密部品

μm台の寸法精度を誇る精密部品と国内有数の設備保有台数で最先端電子・車載機器を支える。

保有設備

順送プレス機 約**180**台

成形機 **44**台 (堅型/ロータリー)

めっき **4**ライン × **2**条 (Ni+Au)

月産生産数

端子 **40億**pin

成形/組立品 **1.2億** 個

その他設備

炭化水素系洗浄機 / 時効(熱)処理用電気炉



マネジメントシステム

ISO 9001 / 14001

IATF 16949 (2023年/1月取得)



5Sが徹底された国内最大級のプレス工場



自動立体倉庫：搬送システム



日滝原工場内自社めっきライン

機械器具セグメント

自動組立機、各種専用設備、FA設備の開発/設計/製造

積極的なR&Dと鈴木の精密加工技術の融合で
次世代のモノづくりを切り拓きます。

自社ブランド装置 / 各種専用装置



鉛フリー対応 窒素リフロー炉

- ◆ 窒素消費量150ℓ/分、酸素濃度500ppm〜をコントロール。
- ◆ 触媒効果によりフラックスの炉内付着を抑制。



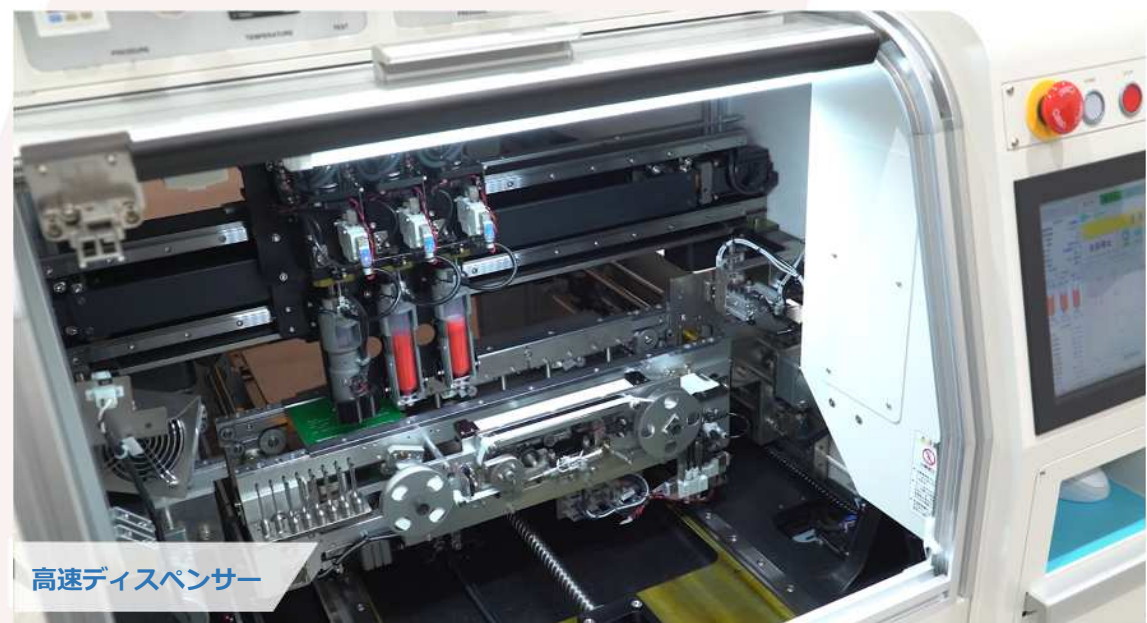
高速ディスペンサー

- ◆ ジェット塗布ヘッドが更なる小型チップに対応。
- ◆ 業界トップクラスの塗布スピードを実現。
- ◆ 信頼の装置構造で高精度塗布を継続。
- ◆ 豊富なオプションにより多様な塗布ニーズに対応。



各種専用設備

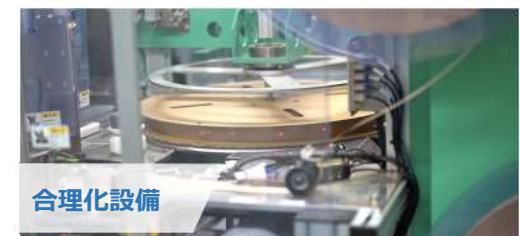
- ◆ お客様のニーズに合わせた専用設備の製造。
- ◆ 半導体関連組立機、医療機器組立機その他、各種自動化、合理化設備の製造実績多数。



高速ディスペンサー



内製向けインライン画像検査装置



合理化設備



専用装置

主要生産品目

鈴木グループ全体

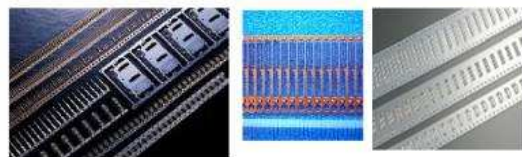
金型



順送プレス金型・IMD金型

部品

各種コネクタを中心とした
OEM生産

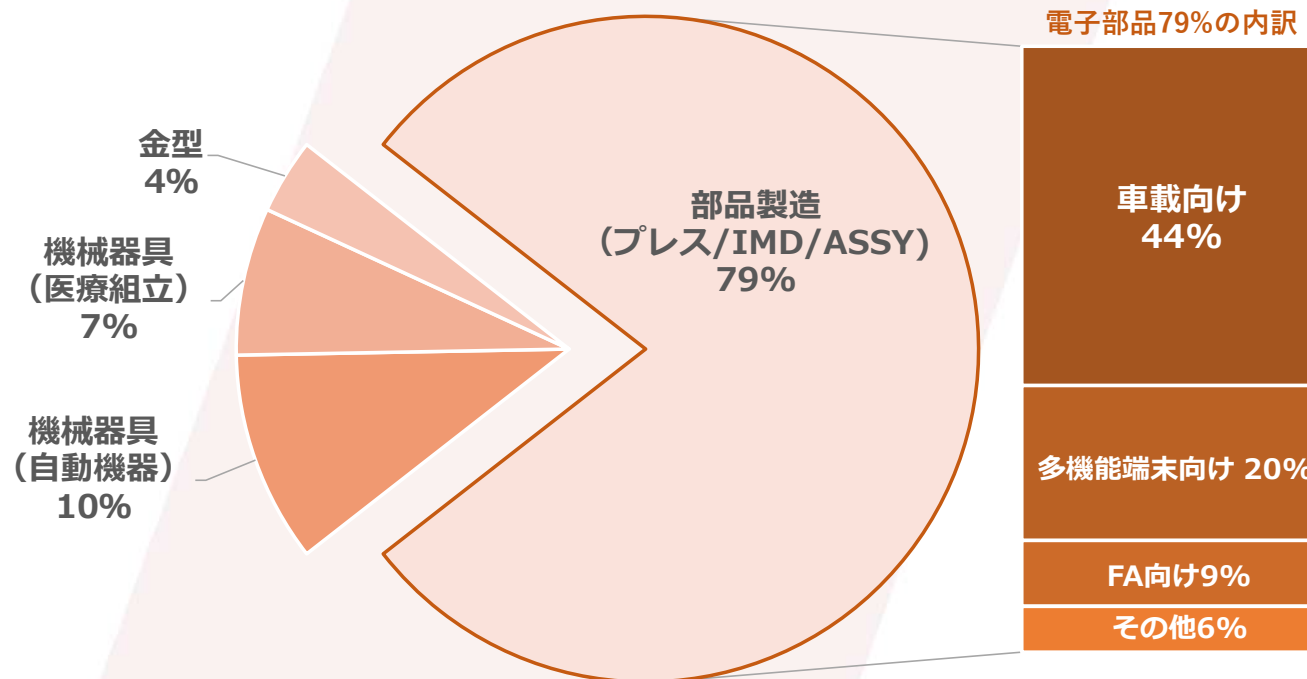


モバイル/産機向けコネクタ



車載向けコネクタ

生産品目別売上高比(2026年6月期)



自動機器



自社ブランド装置：窒素リフロー炉
高速ディスペンサー

カスタム品：半導体関連自動機各種
医療器機組立自動機
画像検査装置
その他各種FA機器

医療機器



カテーテル手術用
関連機器組み立て

(株)鈴木の強み 一貫生産体制

金型製造から自動機の製造、それを使った量産～組立まで。

35

金型、プレス、めっき、成形、自動機の製造を社内で完結。コストメリットの創出、高品質、安定供給をお約束します。



装置製造

金型
製造

プレス
加工

めっき

成形

組立



サステナビリティ方針

サステナビリティ

サステナビリティ基本方針

【100年先へ

ー未来へつなぐ新たな「不への挑戦」ー】



変化や挑戦を生み出す 人材の育成

変化や挑戦を生み出す人材の育成に向けて、多様性、公平性、包括性（DEI）を重視した人材育成計画を推進していきます。技術と価値観の継承を通じて、持続可能な組織の成長と革新を支える人材を育てます。



グローバル企業として 強靱な ガバナンスの確立

グローバル企業としての責任を果たすため、脱炭素に基づく気候変動対応、人権方針の策定、紛争鉱物の不使用、明確な組織体制の構築など、強靱なガバナンス体制を確立していきます。



これからの時代を共に生きる 「つながり」の 構築

気候変動やビジネスと人権など、新たな時代リスクと機会に対応するため、情報の収集・分析・発信を強化します。また、地域社会や地球環境との「つながり」を重視し、市場や社会の変化に柔軟かつ迅速に対応する経営体制を整えます。



これまでの取組

2019年～2025年

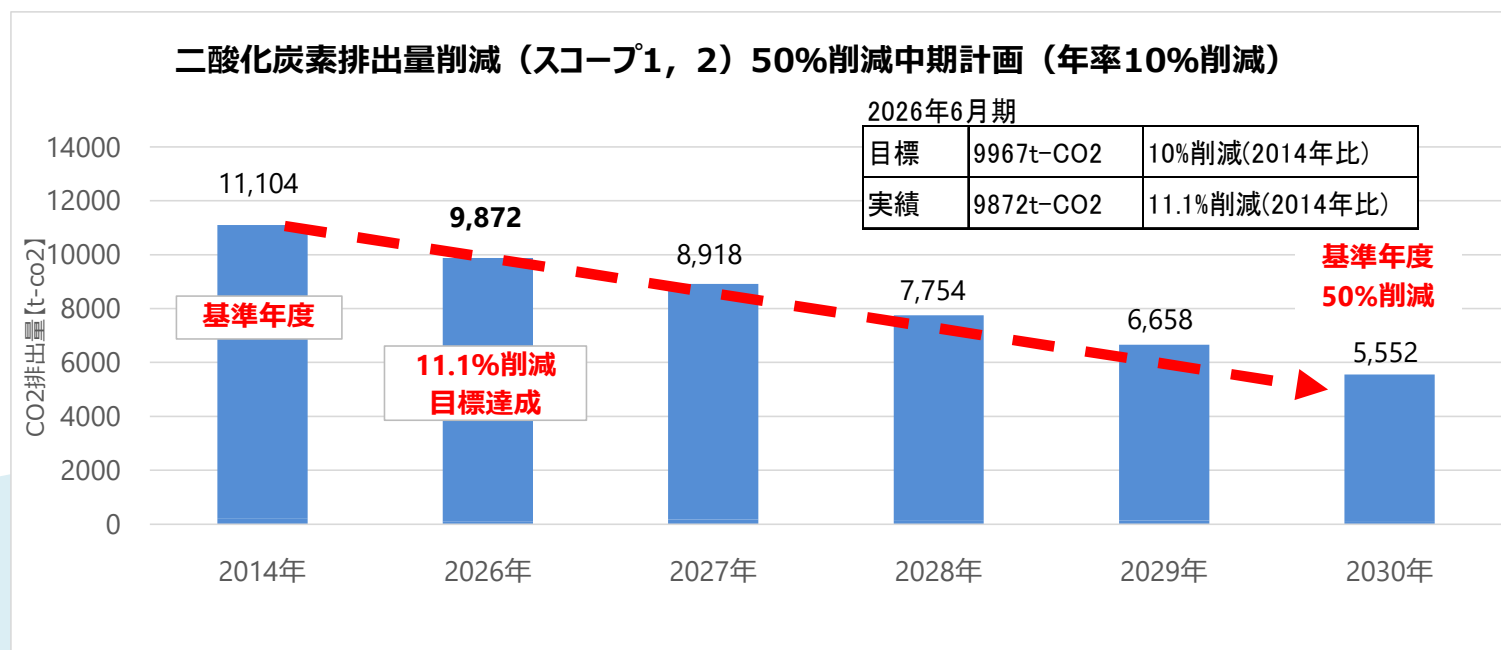
CO₂排出量原単位50%削減 **目標達成**

中期目標

2026年～2030年

2026年6月期からKPIを原単位からグロスへ変更
新たな目標を設定しCO₂削減に取り組んでいます。

【目標】スコープ1、2CO₂排出量50%削減（2014年6月期比）



- 太陽光発電設置
- 電力使用量の見える化
- 省エネタイプの変圧器への更新
- 照明の完全LED化
- 非化石電源の活用
- 省エネ推進活動・環境パトロール推進

社会問題への対応と社会全体の持続性を重視した人的資本の向上に向けた取組

戦略	取組
多様な人材の活躍	- 採用者に占める女性比率の目標を定めた積極的な採用活動 - 障がい者採用のためのトライアル雇用の実施
多様な働き方	- 育児・介護短時間勤務制度などワークライフバランスの実現に向けた各種規定の整備 - 介護等による自己都合退職者の再雇用制度の整備
人材育成	- スペシャリスト、ゼネラリスト育成のための部門をまたいだ人事異動の実施 - 従業員の能力開発を促進することを目的とした能力開発面接制度の導入
安全で働きやすい環境	- ハラスメント講習実施等、職場でのハラスメントの防止 - ロボット化や省人化による身体への作業負荷低減 - 健康診断の確実な実施、特定保健指導の推進による従業員の健康増進

・指標および目標

項目	目標	2025年6月期実績	2026年6月期実績
正社員採用に占める女性比率	2030年6月期までに30%以上	23.8%	15.0%
女性管理職比率	2030年6月期までに7%以上	5.8%	5.8%
男性育児休暇取得率	2030年6月期までに50%以上	93.7%	66.7%

※目標および実績は国内グループ会社合算